

第6回高知県Next次世代型施設園芸農業に関する産学官連携協議会 議事概要

日時：令和2年8月17日（月）15：00～17：00

場所：高知サンライズホテル2階「向陽」

出席：委員10名が出席 別紙「出席者名簿」のとおり

議事概要

1 開会

2 要綱改正について

3 議事

(1) 「I o P (Internet of Plants) が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化」の概要
(プロジェクト概要、実施体制、IoPの目標(KPI)とその達成状況 (受田事業責任者)

(2) 研究開発の進捗状況と今後の取組

- 1) ・IoP研究開発の進捗状況 (藤原中心研究者)
・2019年度までの研究評価の実施について
・さらなる成果につなげていくためのPDCAの実施
- 2) 営農支援 A I エンジン開発に向けた研究の進捗状況 (北野中心研究者)

質 疑

(山元委員)

個別評価は、K P I の達成の寄与度など絶対的な評価だったと思うが、総合評価における、研究フェーズごとの相対評価について、具体的にどのように行ったのか教えていただきたい。

(藤原中心研究者)

現時点で行った各課題の評価に基づき抽出された課題の研究改善について、各研究者に提出してもらった。そのうえで、中心研究者あるいは大課題リーダー等により、評価結果と改善計画を見ながら総合的に評価を行った。更に、研究課題群の連携や統合を進めていくことで最終的な K P I の達成に向けて、より効率的な研究体制の構築となるように改善していきたい。

(3) 人材育成部会の進捗状況と今後の取組 (岩崎部会長)

(4) I o P 推進機構の進捗状況と今後の取組

- 1) I o P 推進機構の設置と目的 (武市理事長)
- 2) I o P クラウド (サワチ) の整備と活用について (岡林IoP推進監)

(5) 広報、PR、企業マッチング等の取り組み (細川IoP推進室長)

(6) R3年度、R4年度の事業計画の検討

(受田事業責任者)

令和3年度~~の~~具体的~~に~~事業計画と予算の方向性として提案する。研究については I o P 研究推進部会、

人材育成に関しては人材育成部会、そしてクラウドの産業振興面での利用はI o P推進機構において、PDCAに基づいて来年度の事業計画と予算を考えていく。重点化をしていく部分に関しては、月に1回の頻度でI o P代表者会議を実施し、予算の編成、事業計画を具体化していく。産学官連携協議会が最も重要な意思決定機関であるが、その開催頻度を鑑みて、I o P代表者会議を実質的に、予算及び事業計画について審議する場という形で機能させる。大枠での計画の方針と骨子を代表者会議にお任せいただき、最終の確認については産学官連携協議会でご審議、ご報告をすることを提案する。

(7) 意見交換

(山崎委員)

サワチに関しては、農家さんによく説明をしていけば、必ずや良いものになると思う。不明なものが無く、やらなければならないことが明確なので、あとは県の努力次第。光合成の見える化は祈る気持ちで見ているが、実験装置は現状のような簡易なもので大丈夫なのかと思った。開発期間が延びることを心配しているが、力の入れ方のバランスを考え頑張って欲しい。

(櫻井委員)

県とJAの取り組みが本格化してきたことがよく見え、嬉しく思う。具体的な仕上がりが見えてきたことにも安堵した。JAが全面協力で動いてくれていることもよく伝わってきて、本当に嬉しく、良いものができるだろうと思えた。クラウドでの共有戸数が6,000戸とあったが、新規就農1,000戸増加を目指している折、この数字はそのままで良いのか。

(岡林IoP推進監)

拡張性のあるシステムなので、将来的に10,000戸となっても対応できる。

(秦泉寺委員)

研究、開発の部分は非常に難しく分かりにくいというのが感想である。この取り組み以前に、環境制御技術などで高収穫の結果も出ている。研究分野部門で牽引してもらうのも、農作業の経験による知識の向上につながるのではないかと思う。

JA高知県として、農業者の所得増大、生産拡大を基本とした対策を取っていくという点でデータの提供も行っている。当初は、個人情報の流出などを懸念していたが、高知県の農業を思い、みなさんが理解し協力してくれたと思っている。

JAの営農指導との連携については、営農指導員の技術が不足している。データ農業の重要性は理解しているので努力をしていきたいと思う。

高知県の農家は家族経営が中心であり、難しいことを言うのではなく、老若男女が理解しやすい仕組みを加えて欲しい。

出荷予測データに基づく販売戦略に期待しているが、流通販売の現場では、まだまだ難しい点が多いと聞き及んでいる。しかし、ここが重要だと思っているので、しっかりと議論、研究を行って欲しい。

高知県にはあらゆる経歴の農家さんがいることを考えると、この取り組みは高知県が一つになる事だと思う。情報の一元化だけでなく、生産、販売、流通まで一元化できれば、量は力、品質は信用となるので、高知県が一つと

なり、どこにも負けない産地となるよう先生方には協力をお願いしたい。

(中城委員)

研究、検討が随分と進んでいるように思う。

IoPクラウドについて、情報セキュリティ、情報漏洩への対策には万全を期し、県外の農業者への情報公開範囲は十分に留意をして欲しい。

実際に運用を始めるにあたり、どこが運用を行うかという点が重要になってくると思われる。民間企業が運営することも視野に入れ、仕組み作りをし、検討していく必要があると感じた。

産業群の育成100億円というK P Iについては、県内企業を対象としての話だと思うが、研究テーマが難しく、規模が大きいと中小企業にとってはハードルが高く参画できない。基礎を作るうえでも幅広い企業の参画が必要だと思うので、もう少しハードルを下げた形で県内企業の参画を促して欲しい。

(山崎委員)

他の業界でも言えることだが、小規模な農家の多い高知県に、大規模農業を行える大手企業が参入してきたらどうするのか、県政として討論が必要なのではないか。

(岡林IoP推進監)

大手企業の参入については、企業誘致の際などに、これまでの事例を含めて議論をしている。

平成27年からは、担い手不足の深刻さを鑑み、市町村、JAの合意があり、地域の産地強化にもつながると思える参入であるならば、県として誘致し支援する体制になっている。

(山崎委員)

一律で制限をするのではなく、柔軟な雇用、支援について、じっくり検討する必要があると考える。

(西岡部長)

本日いただいたご意見については、検討をし推進していきたいと思う。

議事について、異議はないか。

(委員一同)

異議なし。

4 閉会

(以上)